

荒木貞夫 あらい さだお 舊陸軍軍人。明治十年五月、二十六日東京生れ、昭和四十二年十一月一日歿（一八七七一—一九六六）。陸軍士官學校、陸軍大學校（首席）卒。昭和六年陸相、八年大將、十二年文相。真崎甚三郎と共に陸軍部内皇道派の指導的存在。戦後A級戦犯容疑で起訴せられ終身禁錮、刑を受け、三十二年假釋放。

著書に『全日本國民に告ぐ』（櫻井實・澁井一夫編、昭和八年）二月十日大道書院）、『大切なのは心で得心して我が小同胞の爲に』（昭和十年九月四日無窮社）、『日本精神發揚講演集』（平沼騏一郎・徳富猪一郎合著・瀬尾芳夫編、昭和十四年）二月十二日國民精神總動員中央聯盟）、『武士道の神髓』（他十四名合著・武士道學會編、昭和十六年十一月十日帝國書籍協會）、『魂』（永野大七郎編、昭和十八年五月）二十日大阪・錦城出版社）等。松本まゆ晴著『國家非常時の際して』陸軍大臣荒木貞夫氏宛書翰』（昭和八年五月十四日附、無刊記）、海島基智二著『宇垣一成と荒木貞夫』（昭和十二年七月）日今日の問題社「情報と解説」）がある。

